

小中学校生徒指導主任研修会から特別活動の大切さを学ぶ

所外研修の第6回目として、8月5日(火)に島尻教育事務所主催の「第2回小中学校生徒指導主任研修会・教育相談担当教諭等研修会」を受講しました。

文部科学省初等中等教育局視学官杉田洋氏による実践の事例を示しながらの講演で100名余の参加があり、本研究所の教育研究員の5名も特別活動の大切さと「人間関係づくり」の重要性についての理論とこれからの実践を考えながら熱心にメモを取っていました。

【講演のレジュメ】

演題

「生徒指導上の問題の未然防止のための学校力・教師力」  
～特別活動等における集団の教育力の活用～  
文部科学省初等中等教育局 視学官 杉田洋

〇はじめに

- 1 授業と生活の充実
- 2 学級力・学校力・子供力の向上
  - ①同僚性や協働性の発揮とチーム力の底上げ
  - ②全校体制で取り組む全員参加による共同的な学びの確立
  - ③全校体制で取り組む学級経営
  - ④全校体制で学級活動に取り組む
- 3 教師力の向上

〇おわりに



写真1 講演会場にて

教育研究員の感想

講演を聴いて、とても心が熱くなりました。そして、子どものことを信じ、子どもに任せることがどれだけ大切か、運動会の終わりのあいさつを涙しながら述べた女の子やクラス全員で長縄を1000回跳ぶ学級の取り組み等を見て、実感しました。

子ども達のキラキラ輝いている姿をたくさん紹介していただき、また、杉田先生自身が自尊感情を高めるきっかけになったお話も聴くことができ、本当に良かったです。自分も子ども達と輝く時間を共有できたらと思いました。そのためには、子ども達に寄り添い、子ども達自身に「何ができそう？」と問い、実行させる取り組みを行うことが大切だと感じました。現場に戻ったときに、どんな具体的な取り組みができるのか、今から見通しを持ちたいと思います。(上原馨)

印象に残ったのは、学校や学級集団を水槽、子どもたちを魚、そこでの生活や人間関係などの雰囲気の水に見立てているお話でした。魚が元気に生活していくためには、水槽の水をきれいに浄化していくことが必要で、その水槽の中に教師も入り、児童生徒理解に努め、生徒指導、教育相談、学級経営・学級づくりなどの手を上手にさしのべていくことが大事だということです。水槽の中に生活する魚たち自身に、より良い水づくりに自主的、実践的に、自発的、自治的に取り組ませることが特別活動だということがよく分かりました。現場に戻ったら、児童と同じ水槽に入り学級経営・学級づくりをしていきたいと思っています。話合いの中で自己決定をさせ、実践にうつすことができる話合い活動を、子ども達を信じて取り組んでみようと思います。(下地こず恵)

「多様な人間関係の中で『生きる力』を育て、『生きる自信』を育ててほしい」という杉田先生の言葉に、改めて特別活動の重要性を感じました。また、他国と比べながら「日本教育は全人教育であり、ローコストハイパフォーマンスである」というお話からも、日本の教育から生活指導(特別活動)は外せないものだと分かりました。でも1番大切なことは、日常の授業や指導であり、それを行う教師の資質向上だということも感じました。私も現場に戻ったら「本音でぶつかりあう人間関係」を目指し、学級の風土・空気づくりを考え、子ども達との信頼関係を大切にすることから始めて行きたいと思っています。そして、子ども達の集団決定や自己決定する力を育てたいです。(仲門 学)

私は研究テーマの核となる部分は「望ましい人間関係」なので、文科省の「特別活動」を担当する杉田視学官の講演を聞く事が出来、感動と学びがいっぱいでした。検証授業でも「本気・自己決定・実践」をキーワードに取り組んできました。今回の講演で理論的な裏付けや、参考になる多くの事例を知ることができました。現場に戻ったら、研究所で学んだ理論や手法を活かして、しっかりと見通しと計画性を持って、意図的に学級活動に取り組みたいです。(横田純子)